

# 経験

豊里中学校 2年1組 石川 碧唯

「政府は緊急事態宣言を発令しました。」  
速報のニュースが飛びかい、私たちの生活は変わった。

私は『中国で原因不明の肺炎が流行』とニュースで聞いたとき、「まあ、日本には来ないでしょ。」と甘い考えを持っていた。しかし、あっという間に日本にも世界にも流行してしまった。スーパーや薬局からトイレットペーパーやマスクが消えた。また、店が閉まったり、時間短縮営業、不要不急の外出制限。色々なことが制限され、できなくなった。私にはとてもつらいことだった。日に日にストレスが溜まっていった。早く終われ、元に戻って欲しい。私はそう願った。

初めは感染者が県内から出たという報道でざわついた。怖かった。マスクや消毒、できることをやった。時が経つにつれ、数十人、数百人、数千人と増えていった。段々、毎日の感染者数を聞いても驚かなくなっていく。慣れは怖い。

ある日、密を避け、神社に行った。山奥の神社だ。久々の外出で私はうれしかった。静かでひんやりして、きれいな空気、たくさん生い茂る木々。私はそれを見て、現実を忘れられた気がした。しかし、参道の帰り道、大きな声が聞こえた。うるさいなと若干思いつつ、声のする方向を見ると、マスクをせず大きな声で騒ぐ集団がいた。それを見て、確かに山の中には人は少ないけれどマスクはしようと思った。私はすれ違う時、速足で逃げるように歩いた。私だけでなくほかの参拝者もそうしていた。きっと、私と同じでコロナに疲れ気分転換に来た人たちなのだと思う。

いろいろな対策が取られ、制限され苦しみながらも我慢している人がいる。私は、大丈夫という過信や「これくらいならいいじゃん」という危機感のない考えは捨てなければ、対策を続ける人に悪いと思う。また、そのような考えを持ってしまうから感染者も増えてしまっているのだなと思った。

私の学校では、人と人の距離をとるために席を離している。その他に、玄関で手指の消毒などしている。足でペダルを押して消毒ができるので、感染確率も低く楽だ。手指の消毒だけでなく、机の消毒もある。決められた人が行うのではなく、全員が協力して、互いの大変さを理解した上で、この危機的状況を乗り越えることが大切だと思う。食べ物を通しての感染も多い。給食の配膳時にできるだけ会話はせず、食事中は無言だ。このように、感染確率を少しでも下げるためには、たくさんのことを実行してみることが大切だと思う。

私が個人的に行っているのは、小まめに手を洗うことだ。消毒をすることは大切だ。しかし、消毒をする前に手をしっかり洗ったほうが良いと思う。また、洗い方にも気を付けている。指と指との間や、爪の間、手首などだ。指などはよく使うからだ。細かい部分にまで気を使うことが大切だと私は思う。一つ一つの行動に理由を考え、行動することでその効果に違いが出てくるだろう。

私は、このウィルスにより大変な思いをすることは想像していなかった。このウィルスによる苦しい経験はきっと今後の人の気持ちを理解し、生活する上で何かの役に立つと私は思う。自分自身のことだけ考えて行動していくのではだめだ。大きな危機感を持った時、落ち着いて考え、我慢することは大切だと思う。しかし、我慢し続けると限界が来てしまう。そうならないためにも、少しの気分転換で心を保ち続けることも必要だ。思い通りにいかないときこそ、「グッ」と踏みとどまり、誰かの批判をし、誰かのせいにするのではなく、誰かのためにどのようにすべきかを考え行動できる人になりたいと思った。

# 「憧れ」

岡部中学校 2年5組 比田井 心暖

私には、憧れの人があります。それは、私のお母さんです。私はお母さんへ数えきれないほどの「尊敬の念」をいただいております。だから、私の憧れの人なのです。私のお母さんは、毎日人を笑顔にし、元気にする仕事をしています。マスクの下でも元気、笑顔 100%の憧れの存在です。この憧れが私の将来の夢につながっています。

私の将来の夢は、毎日子どもたちに笑顔を届け元気 100%の保育士になることです。私は「保育士」になりたいという夢を小さいときから抱いています。小学生時代には、はっきりしていなかった夢が、中学生になり進路を考える機会が多くなり、夢への第一歩を踏み出しています。今、世の中では、「社会的な役割」を求められています。保育士とは、子どもを預かり、保育するという仕事内容に関して担う役割のことであると言えそうです。時代の変化に伴って、保育士に求められる役割はより大きく、複雑になってきているようなのです。今の時代「保育士不足」や「待機児童」の問題が当事者たちの間だけでなく、日本全体の社会問題として世間に認知されるようになり、今まで以上に社会を助ける意味合いが強くなっています。保育士は、子ども達へ間違いない指導をしなければなりません。小学校へ次にあがるからです。

私は保育園が大好きでした。毎日が楽しい6年間でした。保育園の先生方は、責任感があり、私もこんな先生になってみたいと思いました。だから、「保育士の夢」を追いかけたいです。

私は、「保育士」になるにあたり、次のことを目指していきたいと思います。まず一つ目は「広い視野を持つこと」です。保育士一人が見る子どもの人数は年齢ごとに異なっており、最も多い場合では、「4歳児 30人に対して保育士一人」という基準が定められています。そのため、保育士は目の前のことに組みつつも、子ども達に危険がないように常に周囲に気を配ってなければなりません。二つ目は、子どもの発達を見据えた関わり方ができるようになることです。子ども一人ひとりの成長段階にあわせた柔軟な関わり方も大切です。三つ目は、責任感です。子どもたちへ真剣に向き合い、子ども達が安全に園で過ごすことが重要だといえます。私はこの三つを将来に向けて日頃から意識していきたいです。

私の憧れのお母さんへ目標を抱き、「尊敬の念」に追いつけるように少しずつ歩いていきたいです。元気、笑顔 100%を心掛けて生活していきます。マスク生活が主流となり、人の顔全体がハッキリ見えない時代となってしまいましたが、笑顔というものは、マスク越しでも分かり、人を元気づけます。笑顔も忘れず生活していきます。「憧れ」とは夢への第一歩を踏み出すものだと思います。保育士は、不足していますが、誰かがやらなければ幼児の教育も成り立たないと思います。だからこそ、私が立ち上がり、保育士不足を変えていきたいです。この一日一瞬を大切にします。憧れの人のように。これからたくさん進路について向き合い自分にあったものを人生の中でやりたいと思います。努力、挑戦の上に憧れがある。

# 選挙に行こう

川本中学校 3年2組 橋本 圭織

「8240 万人」

皆さんは、この数字が何を意味するか分かりますか。これは2020年度末時点で、紛争や迫害により故郷を追われた人の数です。世界のどこかで日々起こっている出来事。小学生の時は気にも留めなかったことが、中学生の今はとても気になります。民族間の争い、国家間のもめごと、そして地球温暖化。日本だってたくさん問題を抱えています。

今年も線状降水帯の停滞による洪水や土砂崩れなどで何人もの死者、行方不明者がでています。地球温暖化の影響と考えられる問題がたくさん発生している現在では、この先どうなっていくのか不安はつきません。一人一人がどうなってほしいか、どうしたいのか 真剣に考えて、「より良い国」を作っていくことが大切なのだと私は思います。そのための第一歩は「選挙に行くこと」ではないでしょうか。

選挙とは、私達国民が代表を選び、その代表が自分を推してくれた国民の意見を政治に反映するというシステム、つまり私達の理想や願いを実現することができるのです。よく考えてみるとすごいことだと思いませんか。それなのに日本では最近、投票率の低下が問題となっています。令和元年の7月に行われた参議院選挙では48%半分も満たしていないのです。他の国も同じような状態ではないのかと思う人もいるかもしれませんが全てそうではありません。ベトナムでは、まさかの99%超え、オーストラリアでは投票が義務となっており、正当な理由なく選挙へ行かなかった場合罰則があるそうです。日本は罰則がないから投票率が低いのでしょうか、罰則がないと人は投票することができないのでしょうか。そんなことはないはずです。スウェーデンなどの北欧の国々は義務選挙ではないのにも関わらず、いつも80%を上回っているそうです。日本と何が違うのでしょうか。日本では政治の議論がタブー視される傾向があるといわれています。言われてみれば、私も学校で友達と政治の話などしたことありません。それに対して北欧の国々では小学生の頃から先生の引率により政党を訪れ質問したり、政治家が学校を訪れ意見交換会をするなど政治意識を高める教育が推奨されているそうです。このように小さい頃から育まれた政治に対する気持ちが投票率を上げているのではないのでしょうか。

世界には選挙を行っていない国もあります。投票したくてもできない人、意見を言いたくても言えない人だっています。今のアフガニスタンもそうです。香港やミャンマーでも国民が抵抗しても武力によって制圧させられてしまう現実があります。このような現状では国民が政治に参加できているとは思えません。74年以上前の日本も限られた人しか投票できませんでした。選挙権を求めてたくさんの国民が立ち上がり、自分の命と引きかえに選挙権を勝ち取ってきました。だから現在の日本は民主主義国家なのです。自分の意見を自由に言うことができ、政治に参加できるのです。しかし、国民が決める権利があるのに選挙に半数の人しか参加していない現状で民主主義国家と言えるのでしょうか。選挙にも行かず「今の政府はダメだ」「国会議員は何をやっているのだ」などSNSでつぶやいているのは無責任だと私は思います。せっかく勝ち取った権利を無駄にするべきではありません。

日本の選挙権は18歳から。私もあと3年で選挙ができます！私は早く選挙に行きたいです。三年後、日本を「より良い国」にするために責任を持って投票しようと思います。これからは、私達若い世代の一人一人が、「自分たちが日本を作っていく」という意識を持ち、たくさんの人が投票に行くべきだと思います。

みなさん、選挙に行きましょう。「より良い日本」にするために。

# 笑顔とパワーのある人へ

花園中学校 3年4組 田沼 夢菜

「あなたは、私の歳の離れた友達なんだから。」そう言われたとき、思いもかけない言葉に、心が震えました。なぜなら、そう言ってくれたのは、幼い頃から通っている習い事の教室の先生だったからです。私が教室をやめるときに、この言葉をかけて下さいました。先生はとてもお洒落で、元気な先生です。少し忘れっぽく、ハキハキしているけれど、とても優しく心配性でもあります。私が困ったり悩んだりしていると、先生はいつも「いいのよ、そんな事気にしなくて。」と明るく笑い飛ばしてくれます。先生と話すだけで心が軽くなり、前向きになれる。教室には、私が5歳の時から週に2回、姉と一緒に通っていて、先生とは長い付き合いです。先生の自宅での食事に誘ってもらったことや、先生の飼っている犬と遊ばせてもらったこともあります。だから先生は、私のことをよく知っているし、私も先生のことをよく知っています。

私と三つ違いの姉は、いつも一緒にとても仲が良く、けんかをしたことがありません。姉は明るく、社交的で、何事にも積極的なタイプですが、私は人見知りで、石橋を叩いて渡るタイプでした。他の習い事の先生や友達のお母さんからは、「お姉ちゃんはしっかりしているよね。」とよく言われましたが、「夢ちゃんは大人しいよね。」「夢ちゃんは喋らないね。」と言われてきました。私は子供ながらに、その人たちの言いたいことがわかりました。姉はしっかりしているけれど、妹はそうではないと言いたかったのです。小さいからわからないと思って言っていたのかもしれませんが、何度も言われれば想像がつかず、喋らない子だと言われてしまうと、その場では話したくても声が出せなくなりました。家の中で話すようには、外で話すことができませんでした。母はその度に他の人が言うことなんて気にしないでいいと言い、姉と同じことをしなくてもいい、自分は自分と私の良いところを挙げて褒めてくれました。

家族以外の大人で、初めて私のことを認め、理解してくれたのが教室の先生でした。先生は、「お姉さんはいつも笑顔で、堂々としているから安心感があり、しっかりしているように見える。実は、あなたの方が器用なのだから、もっと自信をもってニコツとしてごらん。」とアドバイスしてくれました。それを聞いて、なるほどと思い、合点がいきました。姉の周りにはいつもたくさんの方がいて、信頼されています。それは姉が笑顔絶やさず、優しさを持っているからだと思ってきました。家の中でも歌を歌い、楽しそうにしているし、冗談を言い合っている陽気です。私が尊敬している教室の先生もそうです。悩んでいる人を助け、元気を与えるパワーがあります。今の私に足りないものは、それだと思いました。私はそのパワーを手に入れ、誰よりも輝きたいと思いました。

私は中学生になり、生徒会本部役員に立候補しました。姉がやっていて憧れたこともあります。生き生きと活動している先輩方の姿を見て、私もその一員になりたいと思ったからです。その決断に驚き、大丈夫なのかと心配する人もいましたが、私はもう気にしませんでした。母や教室の先生に話すと「いいんじゃない。やってみれば。」と背中を押してくれました。今は、生徒会本部役員になり楽しく充実した学校生活を送っています。

私は、教室の先生と出会うことができ、幸せです。先生は私に大切なことを教えてくれました。先生のように、人を励まし勇気づけ、姉のように笑顔絶やさず、周りの人に優しくできる人になりたいです。そして、自信をもって色々なことに挑戦し、自分をもっと高めていきたいです。

桜の咲く季節になったら、歳の離れた友達と、笑顔いっぱい語り合いたいです。

# I'll do my best

東京成徳大学深谷中学校 1年1組 嵩岡 うるい

“Happy Birthday Urui!!”

“Thank you very much!”

これは夏休み中に交わした、担任の先生とのメールのやり取りです。私のクラスの担任の先生はオーストラリア人。クラスメイトの誕生日を必ず祝ってくださる生徒想いの先生です。私が通う中学校は、英語教育が特色の一つになっています。そこに魅力を感じて受験をしましたが、まさか担任の先生がオーストラリア人とは思っていませんでした。先生は日本語を話すこともできますが、日々の会話はすべて英語です。朝のホームルームや終礼の時はもちろん、英語の授業や学級活動もすべて英語で行われます。

入学したばかりの頃は英語を聞き取るのがやっとなで、自分から先生に話しかけるにはとても勇気が必要でした。またクラスには、海外での生活経験がある友達や今まで長く英語を学んできた友達がたくさんいます。彼らが先生と自然に会話をしている姿を見ると、話せない自分がみじめに思えて、ますます話すことから遠ざかってしまいました。本当は英語を頑張りたいと思って入学したのに。

そんなある日のこと先生がホームルームの時間に自分の経験や今の自分について話をしてくださいました。オーストラリアで解剖学を学んできたことや現地の学校で理科の教員をしていた時のこと、日本に行くことを家族に反対されたことや日本人に英語を教えることへのやりがい、そしてこの学校で担任になるまでの険しい道のり。この学校の先生になったばかりのころは、生徒と一緒に漢字の練習をしたり、書類をすべて日本語で書いたりしたそうです。「自分の想いを伝えるだけではだめ、認めてもらえるように日々日本語の上達に励み、周りから少しずつ理解してもらえるようになった。」と、楽しかった思い出だけではなく、苦勞したことなども包み隠さず話してくださいました。いつも明るく、私たち一人ひとりに真剣に向き合ってください先生ですが、母国語が使えない環境の中で実は人一倍努力していることを知り、言葉にならない感動とともに、今の自分がとても恥ずかしくなりました。「私はまだ何の努力をしていない。逃げていてはダメだ。間違えることを恐れずにもっと英語と向き合おう。」と。そこで、まずは英語の授業の振り返りをするところから始めました。“わからないことはそのままにしない、わからない時は必ず先生に質問する”これは自分で決めたルールです。先生方はいつも丁寧に教えてくださるので、より確実に理解できるようになりました。わからないことがわかるようになることが、今とても楽しく感じています。

私はまだ英語学習の入口に立ったばかりです。単語を並べて話すのが精いっぱい、すらすらと話せるわけではありません。しかし以前の自分とは少しずつ変わってきている気がします。この先英語につまずいたり、時には嫌になったりすることもあるかもしれません。しかしこの恵まれた環境に感謝して、この環境を最大限に活用して学ぼうと思っています。そして自分の語学力にもっと自信をつけて、将来は外国の方々にも自分の意見をしっかりと伝えられる大人になりたいと思っています。

I'll do my best for the future.

# 祖父母たちの判断 ～命の重さ～

深谷中学校 3年3組 阿波連 明里

皆さんは、命の重さを感じたことがあるだろうか。

戦争のことを考えたことがあるだろうか。

私は、この夏に一冊の本に出会い、命の重さや、戦争の悲惨さについて、改めて考えさせられ、気づかされた。その本は、灰谷健次郎の「太陽の子」だ。

この話は沖縄に住む6年生のふうちゃんという女の子が主人公だ。ふうちゃんが6年生に進級する頃から、父親の様子が少しずつ変わっていく。笑わなくなり、ふさぎ込む。時には、ふうちゃんを抱きしめて泣いたりする。今でいう「うつ病」だと思う。ある朝父親は、急に手を震わせ、何かを言いながら裸足で店に駆け下りた。ふうちゃんは父親の様子を見て、父親の心の病気の原因は、沖縄にあるのではないかと考える。母親たちに30年前に起きた沖縄戦のことを聞くが、不思議なことに皆その話題を避けた。ふうちゃんは、自ら行動を起こし、沖縄戦を知り父の悲惨な体験から、命の大切さを知った。

私の父は、沖縄出身だ。コロナウイルスが流行する前は沖縄に毎年帰省していたが、今は電話のみになっている。この本を読んで、私は祖母に沖縄戦の話聞いた。沖縄戦が最も激しいころ祖母は3歳だったそうだ。父から「沖縄の人たちは、日本軍は南部にいるから、そこに行けば守ってもらえる、安全なはずだと聞いて南へ逃げた。けれど、タンメー、ウンメーちゃん(私の祖母)たちは、日本軍がいるところは米軍に狙われる。逃げるなら北だと判断し、家族みんなではほかの人々とは逆方向の北へ逃げた。その判断のおかげで家族は生き延び、今の自分たちがいる。」と聞かされた。今までも何度となく聞いてきたその話は、私の中では昔話であり現実味がなかった。しかしふうちゃんは、「沖縄の血が流れている限りは、すべての事実は受けとめなくては」と思っている。私はどうだろうか。父や母に連れられ、平和記念館に足を運んだ時も、ひめゆりの塔を訪れた時も、残された写真や遺品のむごさに驚き、暗い気持ちになった。しかし、その後は過去の出来事としてしまっていたのではないか。もしも、沖縄戦で祖父たちが南の方向に向かっていたら、きっと今、自分はこの世に存在していなかったはずだ。

沖縄戦について調べていると、戦後何十年たっても、米軍機を見たり戦争のニュースを聞いたりすると怖い体験を思い出すなど、今でもトラウマになっている人が少なくないことを知った。ふうちゃんの父親もその犠牲者の中の一人だったのだ。戦後は親子3人で幸せに暮らすはずだったが、海岸で釣りをしたときに見た風景がづらい記憶を呼び起こし、過去と現実の区別がつかなくなる。それほど大きなトラウマを抱えていたのだ。

私は、今生きていることを、当たり前のことだと思っていた。しかし、沖縄戦である時祖母が北ではなく南へ逃げていたら、私は今、この世に存在しなかった。沖縄戦でたくさんの人が命を落としていなかったら、第二次世界大戦でさらに多くの人々が命を奪われることがなかったら、今この世界にはもっとたくさん貴重な命が存在していたはずなのだと気づいた。

沖縄戦の悲惨さと戦争を起こしてしまった代償を忘れてはならない。戦争は尊い命を奪い、生き残った人々にも癒えることのない深い傷を残す。しかし、今もこの地球で戦争や紛争は絶えることがない。どんな理由があっても、人が人の命を奪っていいはずがないのだ。戦争の悲惨さをわかっている、今の私には止められないことが悔しい。しかし、反省や後悔だけにとどめず、これからにつなげていかなければならない。祖父母たちがした私たちの命を守るための小さくても大きな判断を、私もしていきたい。私は、今自分がここに存在することに感謝し、命の重さを忘れず、私だからできる小さくても大きな判断をしっかりとしながら生きていきたい。

# 繋がる未来

南中学校 3年2組 小暮 優衣

2100年を生きる中学生の皆さん。皆さんは中学校生活を思いきりエンジョイしていますか。今しかできないことを仲間と協力して取り組んでいますか。給食は美味しいですか。新鮮な野菜、肉や魚、そして美味しいお米を食べていますか。

2021年の現在、世界中の人々が今までの日常とはかけ離れた、異常な日常を過ごしています。新型コロナウイルスが猛威を振るっている影響で、多くの人々が現在の生活を不便に思い、生きづらさを抱えながら生活しているのです。私たち中学生もその中の一人です。それまでの日常とは大きく変わり、思い描いていた中学校生活ではなくなりました。行われるはずだった行事、部活動の大会、修学旅行、様々なことが延期や中止になりました。そんな日常の中で「2100年未来の天気予報」の存在を知り、動画を視聴しました。その内容に驚いたのと同時に2100年は、今の私たちよりも過酷な日常を過ごしているかもしれない、と気づくことができました。そして、2100年を生きる中学生の皆さんのことが心配になりました。このまま経済重視の政策をすすめた結果、二酸化炭素濃度が上昇してしまい、地球温暖化が深刻になってしまうと予想されていたからです。最高気温40度以上、熱中症で亡くなる人は15,000人以上、スーパー台風の接近、竜巻や豪雨、洪水。それらの影響で農作物への被害も大きくなるそうです。そんな状況の中で、2100年を生きる中学生の皆さんが、中学校生活を思いきりエンジョイしている姿を想像することが私にはできませんでした。

しかし、それを食い止めようと123か国と一地域が2050カーボンニュートラル宣言を表明し、温室効果ガスを全体としてゼロにすることを目指すそうです。それは、排出量と除去量を差し引いた合計をゼロにするということです。排出をゼロにすることは難しい。排出しなければならなかった分については、同じ量を吸収または除去することでネットゼロを目指します。日本では環境省が中心となり、2050カーボンニュートラル、全国フォーラムが開催され、様々な立場の人が意見を交換し、実現に向けた取り組みを発表したそうです。

2021年を生きる私たち中学生から、2100年を生きる中学生の皆さんのためにできること。温室効果ガスを減らすために、中学校生活において私たちがすぐに始められることを考えてみました。使用していない教室の電気を消す。水道を出しっぱなしにしない。エアコンの温度設定を28度にする。文房具など使えるものは最後まで大切に使う。給食は残さない。ゴミは分別してリサイクルする。他にもできることはたくさんあります。一人ひとりの行動が大きな力となるのです。その第一歩として、多くの中学生に「2100年未来の天気予報」を視聴してもらい、私と同じように、それについて考える機会を作ってほしいです。「地球温暖化」の先にある過酷な時代を生きる中学生たちの姿を想像してほしいのです。

突然だった学校の休校、先輩と出場するはずだった大会の中止、行くはずだった林間学校や修学旅行。私たちは悔しい思いや残念な思いをたくさん経験しました。そんな私たちよりも、2100年を生きる中学生の皆さんが生きづらい社会にしてはならないのです。一人ひとりの行動力が必要です。私たちに今できることを始めましょう。ライフスタイルを変化させるのです。2100年を生きる中学生の皆さんが中学校生活を思いきりエンジョイしている姿を思い浮かべてください。さて、あなたは今から何をしますか。

# 当たり前の毎日に感謝を

藤沢中学校 2年3組 塚越 健太

2011年3月11日、午後2時46分、たくさんの人の日常生活と命が奪われた東日本大震災が起きたあの日、あの時。3歳だった私は、母の仕事の都合で姉と一緒に仙台市の祖父母の家にいました。

あの日、母は仕事のため昼過ぎに宮城県の栗原市というところに出かけて行き、私と姉は祖父母と一緒に留守番をしていました。私は祖父母が大好きだったので、母が仕事で留守の間も特に何の不安もなく過ごしていました。3歳の私はテレビの戦隊ヒーローが大好きで、母が出かけた後、祖父母がそのおもちゃを買ってくれるということで、ご機嫌だったことを覚えています。

ずっと欲しかったおもちゃを買ってもらい、早く遊びたい気持ちを抑え、家に帰ってきたとき、あの地震が起きました。地震というものがまだよく分かっていなかった私でしたが、すぐに普通ではないと感じました。立ってられないような揺れと、家の物が落ちてくる大きな音、それまで聞いたことのない地響きの何とも言えない音は、今でも鮮明に覚えています。

激しい揺れの中、祖父母はすぐに私と姉のところに駆け寄ってきて、近くにあった毛布をかぶせ、抱きかかえるように守ってくれました。私は何が起きているのか理解できませんでしたが、とにかく早く終わってほしいと願いました。揺れがおさまるまでの時間はとても長く感じられました。

一度目の揺れがおさまり、毛布の中から出てきた私は、部屋の中を見てとても驚きました。食器棚の食器は落ちて割れ、本棚は倒れ、まるでいつもの祖父母の家とは思えないほどぐちゃぐちゃになっていました。そして、電気も水道もガスも全て止まりました。

その後も容赦なく大きな揺れが私たちを襲ってきて、家にいることも危険になり、その日は近くの公民館に避難をし、そこで母の帰りを待っていました。

母が仕事で行った栗原市は震度7を観測し、あの日日本で一番揺れた場所でした。家が倒壊し、地割れが起き、普段とはかけ離れた光景だったと後から聞きました。通常であれば車で1時間程度の道のりをその日、母は6時間かけて帰ってきました。母は私たちの顔を見てほっとしたのか泣いていました。その日に帰ってこられたことは奇跡だったのではないかと今では思っています。

あの日から10年が経ちました。私がいた祖父母の家は、家の中こそぐちゃぐちゃになりましたが、家が倒壊したわけでも、津波が来たわけでもなく、家族もみな無事でした。しかし、あの日、地震やその後に襲ってきた津波で親を亡くした子どもは1,800人にのぼるそうです。また、あの日を境に家を失い、生活が一変してしまった人が数えきれないほどいることを、私は後で知りました。

幼いながらもあの地震で水や電気が使えず、食べたいものを食べるができないという生活を経験しました。その経験から、今、私は自分の日々の生活が、いかに恵まれたものであるかを実感しています。

普段考えることはないかもしれませんが、私たちが普段当たり前と思っていることのすべては決して当たり前ではないのです。水も電気も食事も、そして人の命も。そう考えることができれば、自然とそれらに対する感謝の気持ちがもてるのではないのでしょうか。

今の日本は、新型コロナウイルスがまん延し、また、自然災害がいつどこで起きてもおかしくないような状況で、誰もが今日と同じ明日が過ごせるとは限りません。そのような状況だからこそ、日々の「当たり前」が決して当たり前ではないと自覚し、それらに感謝しながら生活していくべきだと思います。私たち中学生が今、このように学校に通い、友達に会い、給食を食べることができていることも、ありがたいことなのです。

家族や友達と、当たり前と思える毎日を過ごせることがどれだけ幸せなことなのか、是非みなさんにも考えてもらいたいです。

# 努力すること、諦めないこと

上柴中学校 3年3組 北島 照葉

私は昔から頑張ることが苦手だった。頑張ってもなかなか成果が出ないし、他の子に比べてもの覚えが悪く、いつも失敗ばかり。そのことに気づいてからは、「できない」と思った瞬間に諦めてしまう癖がいつのまにかついてしまっていた。勉強中も、無理だと思ったらすぐに諦めたり、習っていたピアノも中途半端なところで辞めてしまった。

中学校に入学して、私は吹奏楽部に入りチューバの担当になった。初めこそ何とかついていけたものの、先生や先輩に注意されることも多く、なかなか上達できず、途中から周りとの差を感じ始めた。自分が全体の足を引っ張っていることは薄々気づいていたし、そんな自分に正直イラッとしていた。

母に、吹奏楽部を辞めたほうがいいかと相談したときは、「本当に今、頑張っているの?」と言われた。私はいつも、「自分には無理だ」と諦めてばかりいたけれど、母の言葉に、少しは思うところがあったため、もう少しだけ頑張ってみることにした。すると、少しずつではあったが、上達していると感じることが増えた。

私は気がついた。今まで「頑張っていた」と思っていたが、頑張りが足りていなかったことに。

それからは努力を続け、難しい曲も吹けるようになった。

そして私は3年生になり、副部長になった。初めは失敗が多く、また足を引っ張ってしまうこともあったが、諦めずに活動を続けたことで、前よりも失敗は大きく減り、代わりに少しの自信がついた。

6月、3年生になっての初めての発表会である、北部支部研究発表会が迫ってきた。

私たちは、発表会に向け全力で練習に励んだ。新入部員が新しく入ってきたため、後輩への指導も両立して行わなければならず、忙しい日々が続いた。だが、つらくはなかった。むしろ、とても楽しかった。仲間と助け合い、教え合うことで、どんどん部活動内の団結力が深まり、より合奏の完成度が高くなる。

発表会もいよいよ数日後となったある日、「北部支部研究発表会は、中止となりました。」突然、発表会の中止が顧問の先生から告げられた。新型コロナウイルス感染症の拡大が原因だった。一気に部室内の空気が重くなった。しかし、部活動懇談会は行われ、私たちは辛うじて発表の場を失わずに済んだ。ステージに立てないことは悔しいが、少なくとも発表の場はあり、ほっとした。

みんな練習の成果を存分に発揮し、懇談会での演奏は成功に終わった。

8月のコンクールに向けても、一層一生懸命に日々の練習に励んだ。1年生たちもレベルが上がり、一緒に練習できるようになり、より活動が活気づいた。

新型コロナウイルス感染症で活動が制限される中でも、諦めずに練習を続けることで、私たちは大きく成長することができた。

やはり、努力をすることは大切だ。当たり前なことだが、私のように「本当の努力」ができていない人は、一度振り返ってほしい。それは、本当に全力を尽くしているのだろうか。努力をしている気になって、本当の努力ができていないのではないだろうか。本当の努力とは、「自分が前より成長できた」と思えるまで諦めないことだと思う。正直、努力をすれば必ずしも報われるわけではないとも思う。しかし、諦めたらそこで終わってしまう。届くチャンスも逃してしまうかもしれないのだ。

私は部活動を通して、努力をすることや諦めないことの大切さなど、たくさんのことを学ぶことができた。それもこれも、家族や部活動の仲間など周りの人たちのおかげだ。

今は部活動を引退し、日々受験勉強に励んでいる。部活動があった時以上に忙しい日々が続き、つらいこともたくさんあるが、吹奏楽部で学んだことを生かし、諦めずに最後まで努力をしようと思う。

そして、「高校でも、吹奏楽部に入ろう。」そう、心の中で私は決心した。

# 平和と平等

幡羅中学校 3年2組 津金 暖人

東京オリンピック・パラリンピックが開催された今年、選手からたくさんの勇気と感動をもらいました。私も、パラリンピックを初めて観戦して多くの感動を得ました。しかし、ある疑問が生まれました。それはオリンピックとパラリンピックで対応が違う場面が多いということです。例えば「LINE」のニュース欄でオリンピックの特集欄はありましたが、パラリンピックの特集欄はありませんでした。また、日本ではオリンピックのメダリストとパラリンピックのメダリストでは報奨金が異なります。さらに、今大会で初めてのトランスジェンダーを公表した選手が批判を受けました。一体なぜ、このような違いや、差別が生じてしまうのでしょうか。そこで、私は昨年度、中学校の総合の時間で1年間学習したSDGsの観点から、この問題について考えてみることにしました。

初めに5番目の目標である「ジェンダー平等を実現しよう」の観点から考えました。前述のように、今大会はトランスジェンダーの選手が出場しましたが、ネット上にはその選手を批判する内容の投稿が多く見られました。このようなことがなくなるためには、より多くの人が、LGBTについての知識をつける必要があると思います。そのために、LGBTについて詳しい方の話を聞き、学ぶことで、私が知識を付けていきます。

続いて10番目の目標である「人や国の不平等をなくそう」の観点から考えました。

この観点で取り上げた問題は、人種差別についてです。これまでは、人種差別などへの抗議を示す行動を含む活動がオリンピック憲章により禁止されていましたが、今大会はその憲章が緩和されたことにより、人種差別に対する抗議を示す行動が、いくつか見られました。アスリートによる人種差別への相次ぐ抗議表明が起こった背景には、昨年アメリカで起こった黒人男性の死亡事故があると考えられます。抗議をする選手が増える中、未だ表彰式での抗議行動は、禁止されているため表彰式で抗議行動を行った選手が、調査の対象になるなど、課題点も残っています。私は、海外の方や障がい者の方がもっと生活しやすい社会を実現すべきだと考えます。様々な言語での案内板や、バリアフリーに配慮された街づくりなど、誰もが生活しやすい街づくりを行っていく必要があります。また、街中で困っている方がいたら私から積極的に声をかけ、「手助けの輪」を広げていきます。

最後に、16番目の目標である「平和と公平をすべての人に」の観点から考えました。

この観点で取り上げた問題は、戦争についてです。オリンピックやパラリンピックから話が大きく変わってしまいましたが、平和を語る上で、「戦争」は大きな意味を持つと、私は考えます。終戦から76年を迎え、戦争を体験された方々の数は減少しています。そのため、若い世代の私達が戦争を体験された方々から実体験を聞き、後世へと語り継ぐ必要があるのではないのでしょうか。現在もいくつもの国で紛争や内戦が起こっています。これらの問題を解決するために私達に今すぐできることは残念ながら、ほとんどないでしょう。しかし、「できないから仕方ない」ではなく、「できることをみんなで探していく」という考えを持つことが、今こそ必要なのではないのでしょうか。

世界には、「平和」と「平等」という面で、多くの課題が残っていることがわかりました。この課題を解決するために私は、生徒会長という立場を生かして学校全体で取り組めること模索し、「平和」と「平等」が実現された社会に少しでも近づけるようにしていきます。

# 地球温暖化が生物に与える影響

明戸中学校 3年1組 倉上 侑大

僕は最近、疑問に思っていることがあります。それは、「地球温暖化は野生生物にどのような影響を、どれだけ与えているのだろうか」ということです。僕がこのような疑問をもったのは、ある出来事がきっかけです。

ある日、僕のクラスの授業で、地球温暖化について調べる機会がありました。そのときの僕は、「地球温暖化」という言葉は聞いたことがありましたが、詳しくは分かっていない状態でした。学校のタブレットを使って調べ学習を進めてみると、地球温暖化は大気中に二酸化炭素などの温室効果ガスが大量に放出されることが原因で、地球表面の温度が上昇することであるといった情報がいくつか出てきました。しかし、僕が見たサイトのほとんどで、生物に対する影響が表記されていなかったり、あるいは、「深刻な影響が出ている」とだけ表記されていたりと、詳しい情報を得ることができませんでした。そこで帰宅した後に、地球温暖化が生物に対してどのような影響を与えているのか調べてみました。しばらく調べているうちに、地球温暖化が生物に与える影響について表記されているサイトを見つけることができました。その中で、僕が特に興味を持った生物をいくつか紹介しようと思います。

一つ目の生物は、ホッキョクグマです。ホッキョクグマといえば、水族館などでとても人気の高い生物です。そんなホッキョクグマですが、地球温暖化の進行によって大きな影響を受けています。具体的には、地球温暖化によって気温が上昇し、海の氷が解けてしまうことで、主食であるアザラシがとれなくなり、餓死してしまう個体が増加するほか、海を長時間泳ぐことを強いられ、途中で溺れてしまうことがあるそうです。また、陸地に上がることで現地の人と衝突事故を起こす危険があることがわかりました。

二つ目の生物は、ウミガメです。ウミガメの卵は、砂の温度で性別が決定します。高温ではメスが、低温ではオスが生まれます。そのため、地球温暖化で気温が上昇することで、オスとメスのバランスが崩れ、繁殖できなくなる危険があります。また、異常気象や海面上昇は、産卵に適した砂浜と産み落とされた卵を二つとも破壊してしまいます。さらにリゾート開発などの影響で、絶滅の可能性が高まっているのが現状です。

三つ目の生物は、シロナガスクジラです。シロナガスクジラといえば、全長三十五メートルにもなる地球上最大の生物です。シロナガスクジラの主食はオキアミという甲殻類で、カルシウムの殻を持っています。地球温暖化により二酸化炭素量が増え、海水が酸性化したとします。酸性の海水は、甲殻類のカルシウムの殻を溶かし、生育に大きな影響を及ぼします。これにより、主食のオキアミの減少によってクジラの個体群に大きな打撃を与えてしまいます。

今回、地球温暖化が生物に与える影響について調べたことで、多くの生物に非常に大きな影響を与え、絶滅の危機に瀕していることがわかりました。これから僕は、地球温暖化への影響を少しでも減らすために、節電・省エネルギーの生活を心がけていきます。そして、地球環境と貴重な生物を守るために、今の自分にできることを少しでも取り組んでいきたいです。